

令和5年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座」開催要項

児童サービスに従事する全国の各種図書館員等、児童書及び児童文学に関する知識を必要としている方の、幅広い知識の修得を目的として、児童文学連続講座を開催します。

1 総合テーマ

「幼年童話の可能性一聞いて、読んで、物語の世界へー」

2 形式

Microsoft Teams を用いて、講義をオンライン同時配信します。また、オンラインディスカッションを除く講義を録画した映像を後日配信します。

利用する PC、インターネット環境は、受講者が各自でご用意ください。また、Microsoft Teams の実行環境についても各自でご確認ください。サービス利用に当たってのサポート等の個別対応は致しかねます。ご了承ください。

3 開催日程

令和5年10月16日（月）、17日（火）

※録画映像の配信日程や申込みについては、後日、当館ホームページでご案内いたします。

4 内容及び講師

別紙のとおり。なお、講座内容は都合により変更になることがあります。

開催前日までに、レジュメを当館ホームページに掲載します。

5 参加費

無料

6 定員

400名程度。ただし、オンラインディスカッションのみ150名程度（いずれも先着順）。

7 申込受付期間

令和5年8月21日（月）～10月1日（日）

ただし、定員に達し次第、受付を終了する予定です。

8 申込方法

1 講義単位での受講が可能です。以下のフォームからお申し込みください。

[フォーム（Microsoft Forms ヘルプ）](#)

問い合わせ先

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

国立国会図書館国際子ども図書館企画協力課協力係

TEL：03-3827-2053（開館日の9:30から17:00まで）

電子メール：kenshu★kodomgo.jp（★を半角の@にし
てください）

総合テーマ「幼年童話の可能性—聞いて、読んで、物語の世界へ—」

子どもの読むものは成長につれて、絵が中心の絵本から、文章が中心の童話や小説へと、少しずつ変化していきます。幼年童話はそのあいだにあって、絵本から児童文学への橋渡しをするものと位置づけられます。大人の音読を聞いて楽しむことも、子どもが自分で黙読して楽しむこともできるものです。

一方で、図書館や学校で児童書にたずさわる方からはよく「子どもたちは、絵本は喜んで読む（見る／聞く）けれど、なかなかその先の読書につながらない…」といったお悩みをお聞きます。今年度はこの課題に注目し、「幼年童話の可能性—聞いて、読んで、物語の世界へ—」をテーマとして、小学校低学年前後の子どもたちのための文学について考えたいと思います。

まず総論として、そもそも幼年童話とはどのようなジャンルか概観します。各論では、幼年童話の対象とされる年齢の子どもの保育学・教育的な特徴を考えます。さらに幼年童話でのジェンダーの描かれ方、そして、子どもたちに親しまれているシリーズ作品の特徴を取りあげるほか、国際子ども図書館の児童サービスについてもご紹介します。また、今回は、参加者のみなさんにオンラインでグループディスカッションをしていただくという科目も設けました。

この講座をとおして、子どもたちと絵本の先にある読書の世界へ入っていくには何が必要なのか、みなさんと考えていきたいと思っています。

監修 藤本 恵（武蔵野大学文学部教授、国立国会図書館客員調査員）

令和5年10月16日（月）

10:00～11:30

「幼年童話概論」

佐々木 由美子（東京未来大学教授）

……幼年童話とは何でしょうか。幼い子どもを読者対象とした幼年童話は、児童文学のなかでも最も児童文学らしく、それゆえの制限や難しさを併せ持っています。本講義では幼年童話の成り立ちや変遷、特徴や魅力などを明らかにしていきたいと思っています。あわせて幼い子どもにとっての文学とは何かについても考えてみましょう。

13:00～14:30

「幼年童話にみるジェンダー—育児の描かれ方を中心に—」

宮下 美砂子（小田原短期大学特任准教授）

……人生の最初期に受容する幼年童話は、子どもたちの価値観や人格の形成に大きな影響を与えられます。本講義では、特にジェンダーの視点から幼年童話を見直すことで、物語を通していかなるジェンダー観が子どもたちに伝えられているのかを検討し、子どもたちが自らの、そして他者の生と性を肯定して生きることを後押しするような幼年童話のあり方を考えます。

別紙

15:00～16:30

「グループディスカッション—幼年童話と子どもの読書」

藤本 恵（武蔵野大学教授、国立国会図書館客員調査員）※モデレーター

……ふだんから本や子どもと関わっているみなさんと、幼年童話や読書活動について語りあってみませんか。オンラインだからこそ、遠く離れた地域の方とも気軽につながることができます。

※この科目では、少人数のグループに分かれてディスカッションを行います。ディスカッション中はマイクとカメラをオンにさせていただきますので、ご了承の上お申し込みください。

令和5年10月17日（火）

10:00～11:30

「子どもの人間形成と幼年童話」

米川 泉子（金沢学院大学准教授）

……近代の幼児教育思想の特徴のひとつは、教育を職業訓練から解放し「遊び」を通した総合的な人間形成のいとなみとして理解したことにあります。物語の世界で子どもが遊ぶとき、ただの識字教育や読書教育にはきりつめられない人間形成上の意義が認められるとすれば、それはいったい何でしょうか。本講義では幼年童話を中心に教育哲学研究の観点からこの問いを考えていきたいと思います。

13:00～14:30

「幼年童話人気シリーズに学ぶ 子どもの心のとらえ方、ひろげ方」

藤本 恵（武蔵野大学教授、国立国会図書館客員調査員）

……幼年童話には、30年以上にわたって読まれるシリーズ作品がいくつかあります。ただ、大人には魅力がじゅうぶんに伝わらないのでしょうか、評論や研究で取りあげられることは少ないのです。この講義では、幼年童話のシリーズ作品を紹介しながら、子どもたちの心をとらえる秘密を探り、子どもの読書のひろげ方について考えます。

15:00～15:40

「国際子ども図書館の小学生向けサービス」

国際子ども図書館職員

……国際子ども図書館では、子どもたちに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけを提供することを目的として、年齢に応じたさまざまな読書支援サービスを行っています。今年度は、小学生向けのサービスについて、子どもと本を結びつける役割を担う学校や学校図書館への支援活動も含めて紹介します。

別紙

講師略歴（五十音順）

佐々木 由美子（ささき ゆみこ）

白百合女子大学大学院児童文学専攻修士課程修了、同博士課程満期退学。鶴川女子短期大学（現フェリスア子ども短期大学）を経て、東京未来大学こども心理学部教授。主な研究分野は児童文化・文学、幼児教育。特に絵本や幼年文学。令和元年度児童文学連続講座「幼年童話事始め」講師。

著書 『絵を読み解く 絵本入門』（共著、ミネルヴァ書房、2018）

『現代日本子ども読書史図鑑』（共著、柘風舎、2022）等

論文 「幼年文学史研究－試論・解題稿－」（『日本児童文学史の諸相 試論・解題稿』白百合女子大学児童文化研究センター、2003）

「幼年文学における〈シリーズ〉と〈食〉－「ぼくは王さま」と「くまのパディントン」シリーズを中心に－」（『東京未来大学研究紀要』15、2021）等

藤本 恵（ふじもと めぐみ）

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科日本文学専攻修士課程修了、同大学院人間文化研究科比較文化学専攻（博士課程）単位取得退学。都留文科大学を経て、2019年4月から武蔵野大学文学部日本文学文化学教授。専門は日本児童文学、童謡など。2022年4月から国立国会図書館客員調査員。

著書 『掘りだしものカタログ3 子ども部屋×小説』（明治書院、2009）等

論文 「雑誌『少女の友』詩欄の推移：口語詩・童謡・小曲・少女詩」（『日本近代文学』89、2013）

「現代詩歌と子どもの言葉：雑誌『赤い鳥』と田中千鳥から百年」（『日本現代詩歌研究』13、2018）等

宮下 美砂子（みやした みさこ）

千葉大学大学院人文社会科学研究所博士課程修了。博士（文学）。千葉商科大学サービス創造学部非常勤講師、小田原短期大学保育学科特任講師を経て、2023年から小田原短期大学保育学科特任准教授。専門分野は、絵本研究、近現代表象文化研究、ジェンダー研究。

著書 『いわさきちひろと戦後日本の母親像—画業の全貌とイメージの形成』（世織書房、2021）等

論文 「絵本を教材としたジェンダー教育の可能性：『ピンクがすきってきめないで』を活用した保育者志望の学生への講義を通して」（『絵本学会研究紀要』21、2019）

「幼年文学にみるジェンダー：育児の描かれ方から考える」（『日本児童文学』66(4)、2020）等

米川 泉子（よねかわ もとこ）

上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。聖霊女子短期大学専任講師、目白大学専任講師を経て、2017年から金沢学院大学文学部教育学科（2022年4月教育学部に改組）准教授。専門分野は、教育哲学、幼年童話、絵本学、保育学、幼児教育思想。現在の研究テーマは遊びを通じた想像力の育成と人間性の涵養。

著書 『「家庭団欒」の教育学』（共著、福村出版、2016）

『子どもの心によりそう保育原理 改訂版』（共著、福村出版、2018）

『ワークで学ぶ教育学 増補改訂版』（共著、ナカニシヤ出版、2020）等

論文 「絵本と児童文学のはざまにある幼年童話を考える」（『聖霊女子短期大学紀要』41、2013）

「曖昧な存在としての幼年童話を考える -幼年期の曖昧性-」（『聖霊女子短期大学紀要』42、2014）等